

令和5年度以降の北アルプストレイルプログラムについて

■ 検討事項

令和5年度以降の本格導入に向けて、次の5点について検討したい

① 目標設定

- 登山道維持協力金においては、以下の点を重視する
 - －参加者の理解度・納得度
- 取組評価のための目標設定をどうするか？
 - －認知度
 - －協力率
 - －その他指標？

② 金額設定

- 支払いはあくまでも任意。支払う金額は各協力者の判断に委ねることを前提に、
基準額を見直す必要があるか？（「一口500円」？「一口1000円」？）
- 子供等の免除対象を設定する必要があるか？

③ 收受方法

- クレジットカード決済、口座振込、協力金箱への現金支払いを継続しつつ、
支払いやすさ・利便性の確保の観点から、以下の方法を導入するか検討してはどうか？
 - －QR決済（J-coinpay）の導入
 - －現金支払い地点の拡充（上高地バスターミナル周辺、沢渡、平湯など）

④ 周知方法

- 現地及び、オンラインでの情報発信を組み合わせ、低コストかつ持続性のある周知を行う必要があり、
効率性・波及性の観点から、以下の事項について検討してはどうか？
 - －特定の時期に集中して周知活動（実施時期、使用媒体）恒常的な周知活動として、
 - －共通バナー、PR動画等の導入（行政HP、山小屋HPなど）
 - －現地での広報媒体のデザイン改善

⑤ 協力証導入

- 協力証の導入の可能性を検討してはどうか？
- 他地域の事例も参考に作成内容を検討する必要。（特にクレジットカード決済、口座振込の場合の対応）

① 目標設定

目標設定の目的

- 北アルプストレイルプログラムにおける登山道維持のための協力金事業を安定かつ持続的に運用していくため、毎年の取組を客観的に評価することが必要。そのために目標を設定。
- 目標設定にあたっては、利用者において①取組の背景となる課題を正しく理解していただく、②納得の上で、協力金に参加いただくことを評価できる指標設定が重要。

以下が指標候補（一つの指標又は複数の指標で取組評価を行ってはどうか？）

認知度	協力率	その他
<ul style="list-style-type: none">● アンケート調査を通じた年間実績で評価（該当項目）<ul style="list-style-type: none">－ 認知率－ リピート率 <p>この場合、有効回答数はどのくらいか？</p> <p>必要に応じて、現地でのアンケート調査も組み合わせる必要があるか？</p>	<ul style="list-style-type: none">● <u>協力件数^{※1}÷公園事業利用者数^{※2}</u>を協力率として把握し、評価。 <p>詳細は参考資料「協力金事業の目標像について」に記載。</p> <p>※1：合計収受額÷基準額500円 ※2：「公園事業利用者数報告（上高地）」のうち、「山小屋」、「野営場（横尾・涸沢・槍沢）」の対象期間における利用者数</p> <p>注）日帰り登山者の補足は「資料1-5_登山者数のカウント調査結果」を踏まえ、要検討</p> <p>さらに、アンケート調査の年間実績でも協力率を評価</p> <p>（該当項目）リピート率</p>	<p>< 収受額 ></p> <ul style="list-style-type: none">● 客観的な収受額の目標を定める● 具体的には、北アルプス登山道等維持連絡協議会の決算から、前年度における「総事業費－決算額」を当年度の目標額として設定● 令和3年度決算の場合、 25,675,013円－10,715,000円＝ 14,960,13円● 協議会HPに目標金額を掲載し、定期的に収受状況を反映し、利用者にも見える化？

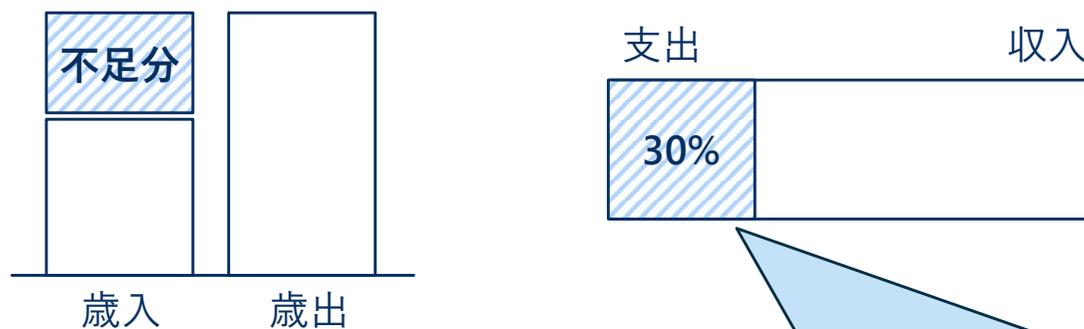
 山岳利用環境の維持管理状況の認知度を上げていく。その結果として、協力率が付いてくる。

【参考】登山道維持に必要な費用分を最低限まかなう設計

- 協議会決算資料をもとに、必要とされる登山道維持費に対して、不足分は約1,000万円と仮定。（令和2年度は約1,100万円、令和3年度は約900万円。）
- 妙高山・火打山入域料における収入と支出のバランスを参考に、支出を収入の30%程度と仮定。
- 【1,000万円】の登山道維持費を確保するために必要な協力金収受額は、【1,430万円】となる。



- 令和3年度公園事業利用者数報告（上高地）より、利用者数（5月～10月）を82,308人とする。
- 基準額100円／500円／1,000円それぞれの場合で、収受額が【1,430万円】となるように協力率を算出した結果、右表のようになる。



年度	収入	支出	支出の内訳				次年度事業 充当見込額
			賃金等	協力者記念品	運営備品等	事前決済手数料	
令和3年度	4,223,199	1,321,064	363,168	897,556	54,258	6,082	2,902,135
令和2年度	3,974,123	1,438,423	416,054	595,012	427,357	-	2,535,700

基準額（円）	利用者数（人）※1	協力率（%）	収受額（円）
100	82,308	173.7%	14,300,000
500	82,308	34.7%	14,300,000
1,000	82,308	17.4%	14,300,000

※1：令和3年度公園事業利用者数報告（上高地）より、「山小屋」「野営場（横尾・涸沢・槍沢）」を対象に、5月～10月（上高地開山期間で対象地域の主なシーズン）の6ヶ月分を合計した。このため、日帰り利用者を含まない点に注意が必要。

【参考】北アルプストレイルプログラムにかかる取組全体を最大限まかなう設計

- 協力率を変数として、基準額100円／500円／1,000円それぞれの場合での収受額を算出した結果を下表に示す。

基準額（円）	利用者数（人）※1	収受額（円）				
		協力率【50%】	協力率【60%】	協力率【70%】	協力率【80%】	協力率【90%】
100	82,308	4,115,400	4,938,480	5,761,560	6,584,640	7,407,720
500	82,308	20,577,000	24,692,400	28,807,800	32,923,200	37,038,600
1,000	82,308	41,154,000	49,384,800	57,615,600	65,846,400	74,077,200

※1：令和3年度公園事業利用者数報告（上高地）より、「山小屋」「野営場（横尾・涸沢・槍沢）」を対象に、5月～10月（上高地開山期間で対象地域の主なシーズン）の6ヶ月分を合計した。このため、日帰り利用者を含まない点に注意が必要。



- 登山道整備研修会にかかる費用も含めて、収受額から充当。
- 一定規模の金額を扱うこととなるため、専門の事務職員を雇用することも検討事項となる。
- なお、利用者負担における公平性の観点から、なるべく多くの利用者が協力することが望ましい。右表では、協力率70%と仮定して試算する。

登山道維持	1,000万円
道標・案内標識	60万円／1基
広報媒体の作成	60万円※1
返礼品の作成	900万円※2
デザイン費	10～50万円※3
登山道整備研修会	約80万円（3回）
人件費（事務職員雇用）	300万円／1名

合計：
2,350～2,390万円

※1：令和3年度第3回検討会資料より（カード配布分は除く設置用のみ）

※2：信越トレイルの事例を参考に単価は150円、協力率70%（利用者数82,308人×0.7=57,615人→6万人）の場合で試算。

※3：デザインの種類、量によって異なる。

②金額設定

- 北アルプストレイルプログラムにおける登山道維持協力金は、引き続き「任意の支払い」と位置づけ、各協力者の判断に委ねることを基本とする。
- その上で、2カ年の実証を通して、基準額をどうするかご意見をいただきたい。
案) 継続「一口500円」 or 見直し「一口1,000円」
- 上記と併せて、子供等の免除対象を設定する必要についても改めて検討を行いたい。

【検討のポイント】

- 協力を呼びかける対象は、対象登山道を利用する全ての人。
- 協力の理解を得やすい金額設定が前提。
- アンケート結果、収受結果、今後の取組（広報媒体等の準備費用、協力証導入の可能性）など、総合的な検討が必要。

③収受方法

- 北アルプストレイルプログラムにおける登山道維持協力金の収受方法は、次の3つを継続実施。
 - ①山小屋（北アルプス山小屋友交会）の協力金箱への現金支払い
 - ②北アルプストレイルプログラムHP上でのクレジットカード決済による支払い
 - ③口座振込による支払い（北アルプス登山道等維持連絡協議会の協力金口座）
- 今後、実際の支払いのしやすさ・利便性（手続きの簡便さ）の観点から、QR決済（J-coinpay）の導入、現金支払い場所の拡充について、検討を行いたい。

【QR決済の導入】

- QR決済サービスを提供する各社の規約上、代価性のない寄付での利用、無人決済を認めていない事業者が多い。
- 唯一、寄付への利用を認めているのが「J-coinpay」（みずほ銀行提供）で、大山隠岐国立公園における大山入山協力金制度で導入実績あり。

さい銭用台紙 イメージ



B2サイズ自立看板（既製品）
板面に塩ビポスターを貼付した状態で納品するので組立は不要です。



【現地で支払える場所の拡充】

- 日帰り登山者等の山小屋を利用しない者が未捕捉の可能性。
- 現地で支払える場所の拡充を求める意見あり。

R4年度利用者アンケートへ寄せられた登山者の意見

- バスやタクシー、ロープウェイ、登山口などもっと協力金を支払える場所を現地付近で増えてくるといいと思う。
- 上高地バスターミナルなどに目立つ 寄付金箱を複数設置する。
- 登山口へ関所のように料金所を設置したらいかがでしょうか？

- これらを踏まえ、現行の場所以外への協力金箱の設置可能性については検討したい。

- 例えば、以下2エリアへの協力金箱の設置検討してはどうか。
（施設管理者と要調整）

- ー 横尾地区※
- ー 上高地バスターミナルまたは沢渡・平湯駐車場

※利用者アンケートの結果から、横尾登山口（涸沢方面もしくは槍ヶ岳・蝶が岳方面）を入山口もしくは下山口として利用した登山者が過半数を占める。これを踏まえ、横尾地区では、例えば横尾大橋や槍ヶ岳方面登山口に現地収受金箱を設置することで、一定の効果が見込まれる。

④周知方法

- ①現地で直接登山者に呼びかけるもの、②HP等オンラインで幅広く発信するものの大きく2種類について、複数の広報媒体を活用して情報を発信。また、山岳関係のマスメディア等への働きかけも可能な範囲で実施。
 - ①現地での広報媒体：看板（登山口）、ポスター（沢渡・平湯BT、バス車内、上高地線、新島々駅）、ラミネート（山小屋、登山相談所、公衆トイレ内（沢渡、横尾など））、カード（山小屋、上高地）
 - ②オンラインの発信ツール：北アルプストレイルプログラムHP、北アルプス山小屋友交会の各山小屋HP・SNS、関係機関HP等
- なお、現地での広報媒体のうち、カード配布は山小屋での手渡しのほか、登山者が多い時期に集中配布。
 - － 7月上旬：北アルプス登山道等維持連絡協議会としてプレスリリース
 - － 7月中旬・海の日連休1週間前：各山小屋HP・SNSで一斉発信、北アルプストレイルプログラムHPで発信

【共通バナー、PR用動画等の導入検討】

- R3-4年度の実証実験結果から、山小屋HPでの情報発信は安定して一定の効果があることが示されたことから、今後も主要な発信ツールの1つとして活用していけると良い。
- その際、共通のロゴやリンクバナーが全てのHPにあると、エリア一帯での取組であることが伝わりやすくなる。

例：
山梨県HP

9 関係機関の皆様へ（リンクバナー）

当該ページにリンクを頂ける際には、下記のバナーをご利用ください。



最小基本サイズ 横45mm、縦16mm

(<https://www.pref.yamanashi.jp/fujisan/kyouryokukin0226-2.html>)

【現地での広報媒体デザインの改善】

- 現在作成されている広報媒体は説明文メインとなっているが、北アルプストレイルプログラムとその中での協力金の取組を図化したものを掲載することで、理解度の向上を図る。
- なお、取組に関する詳細の説明は、北アルプストレイルプログラムHP上に集約し、HPへ誘導する。



←利用者参加制度のイメージ図を入れて分かりやすく

←裏面は、登山道の歩き方、自己責任といった普及啓発に特化した内容の要否も検討

⑤協力証導入

- 令和3年度実証実験では、「寄付金を山岳利用環境維持の原資として最大限活用できる制度設計を前提とする」ことを基本方針の1つとして掲げた。実験であることから、協力者への記念品等についても経費（人件費含む）削減の観点から用意せず実施。（令和3年度第1回検討会資料より）
- 一方で、本格導入においては、参加の証・実績を目に見える状態にすることは、登山者の参加モチベーションを高め、ひいては事業の継続性を維持・向上させることに一定の効果があると考えられるため、導入の可能性を検討したい。

【導入に関するメリット・デメリット比較】

	協力証<無し>		協力証<有り>	
<u>登山道維持費の確保</u>	○	最大限充てることができる	△	一部が協力証にかかる費用（直接費、人件費）に充てられる
<u>手配にかかる事務作業</u>	○	事務作業はかからない	△	事務作業量が増える（デザイン、発注・補充、在庫数管理、受け渡し）
<u>取組の話題性</u>	△	協議会からの情報発信、その他メディアの取材に限られる	○～◎	取組そのもののアイコンとなる（写真に撮って登山者や記者が発信する素材となる）
<u>登山者モチベーション</u>	×?	コスト発生しないことに意義を感じている意見もある可能性あり	○?	コストかけてまで作成することに疑問を感じる利用者がある可能性あり

 **できるだけコストをかけず、参加モチベーション（参加意欲・満足度）を高める方法を検討したい。**

⑤協力証の可能性 | 【参考事例】他山域での返礼品

	富士山保全協力金	妙高山・火打山地域入域料	大雪山国立公園 白雲岳避難小屋登山道利用協力金
返礼品	 <p>■缶バッジ</p> <p>2022 富士山保全協力賞章 Summit of Cooperation in the Conservation of Fuji 富士宮口 須走口 御殿場口</p> <p>https://www.pref.yamanashi.jp/fujisan/kyouryokukin0226-2.html https://www.fujisan223.com/contribution/about/</p>	 <p>https://yamap.com/magazine/27956</p>	 <p>https://www.hakuundake.jp/%E7%99%BB%E5%B1%B1%E9%81%93%E7%B6%AD%E6%8C%81%E7%AE%A1%E7%90%86%E5%8D%94%E5%8A%9B%E9%87%91%E3%81%AE%E3%81%8A%E9%A1%98%E3%81%84</p>
金額	基本1,000円	1人500円任意	1,000円程度
その他特典	(山梨県) 協力者証の提示で、温泉やホテル等の入浴料や宿泊料等の割引	1,000円以上支払った方は、抽選で5名程度に「妙高高原温泉郷ペア宿泊券」の進呈も ※現在も実施しているかは要確認。	—
コスト	(令和3年度静岡県) 【収入】22,391,721円 【実施経費(缶バッジ作成)】1,749,000円 【単価(木札)】38.9円	(令和3年度) 【収入】4,223,199円 【支出】11,321,064円 【うち記念品(実費)】897,556円【単価】約70円	【単価】200円程度
受け渡し方法	<ul style="list-style-type: none"> 現地支払い：係員から手渡し インターネット事前申込：現地受付で申込完了メール画面、コンビニ発券チケットを提示し、受け取り※静岡県は、後日郵送も可 	<ul style="list-style-type: none"> 係員がいる登山口・時間帯：直接受け取り 募金箱のみの登山口・時間帯：登山口にストラップが設置されているので、登山者自身が取っていく 	<ul style="list-style-type: none"> 小屋で支払うと、その場で手渡し 口座振込の場合は受け渡し無し
体制	富士山世界文化遺産協議会 (山梨県観光文化庁世界遺産富士山課) (静岡県スポーツ・文化観光部富士山世界遺産課)	生命地域妙高環境会議 (妙高市環境生活課内)	大雪山国立公園上川地区登山道等維持管理連絡協議会

⑤協力証の可能性 | 【検討事項】導入の要否、協力証のイメージ

	信越トレイル整備協力金	協力証のみ	大山入山協力金
返礼品	 <p>導入する場合、 どのような形がよいだろうか</p> <p>https://www.s-trail.net/maintenance-cooperation/</p>	 <p>※イメージ(写真は大雪山国立公園の協力金の領収書)</p>	 <p>https://tourismdaisen.com/info/news/s116/</p>
金額	1人1,000円以上／一山行	一口500円 又は 一口1000円	<ul style="list-style-type: none"> ・登山1回につき500円 ・何度登っても3,000円
その他特典	—	—	—
コスト	【単価】150円程度	<p>【単価】20～30円を想定</p> <p>※単価100円以上は一口1000円を要検討</p>	不明
受け渡し方法	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット・振込：後日郵送 ・現金支払い：支払い場所（ビジターセンター）で直接受け取り 	<ul style="list-style-type: none"> ・現金支払い：各山小屋で配布 ・クレジット払い、口座振込 <p>証明するものを山小屋で提示 or 同じデザインの電子データ（facebookやインスタ等のSNS用）を支払時に提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「記念カード」は、募金箱横に設置されているため、協力者自身が取っていく ・「梨の木キーホルダー」は、頂上の小屋もしくはナショナルパークセンター窓口で直接受け取り
体制	NPO法人信越トレイルクラブ	—	<p>大山山岳環境保全協議会事務局 （鳥取県西部総合事務所環境建築局 環境・循環推進課） （鳥取県生活環境部緑豊かな自然課）</p>